

平成 24 年度

島根大学教育学部附属学校園研究紀要

豊かな「社会生活」を創造する幼小中一貫教育の追究

豊かな「学び」をつくる子どもの育成 ～学びを拓く子どもの姿を求めて～

2012.11

島根大学教育学部附属学校園

はじめに

島根大学教育学部附属学校部長

舟木 賢治

本附属学校園では、平成15年度から幼小中一貫教育に取り組み、豊かな社会生活を創造する人間の育成を目指して教育研究を行い、今日に至っています。

具体的には、幼小中一貫教育体制の完成を平成25年度に見据え、平成20年度から一貫教育の研究主題として「豊かな『社会生活』を創造する幼小中一貫教育の追究」のもと「豊かな『学び』をつくる子どもの育成」を設定し、年次ごとに研究副題を設けて、教育研究に取り組んできました。

本附属学校園の一貫教育では、その柱として八つの子どもの資質・能力の育成を考えていますが、その中でも特に「思考力・判断力・表現力」に視点をあて、11年間のつながりを意識した教育研究を行ってきました。また、子どもの成長・発達に応じた対応を行うために、教育研究ブロックとして、初等部前期（幼～小2）、初等部後期（小3～小5）、中等部（小6～中3）を設定して、ブロックごとに研究結果を整理し、比較検討してきました。それにより、保育・教科の枠組みを超えた子どもの発達段階の特性が見えてくるとともに、思考力・判断力・表現力を育て高めるための学び合いや教師のはたらきかけについて多くの知見が得られました。

昨年度までは、教師が子どもの実態や変容を把握し、いかに導くかという点に焦点をあてて追究してきましたが、本年度からは子どもの主体性・自立性に焦点をあて、研究副題「学びを拓く子どもの姿を求めて」を設定し、実践的研究を行ってきました。

「学びを拓く」とは、これまでに学んだことを自らいかしながら、新たな学びをつくることと定義し、そのような学びを拓く子どもの姿を追究してきました。「学びを拓く子どもの姿」の追究は、子どもたちが附属学校園における11年間の一貫教育を通した学びを礎として、将来において協働的かつ自立的に行動していける力を身に付けてほしいという願いをもって教育に取り組んできた本附属学校園の幼小中一貫教育の最終課題であるといえます。

本年度は、これまでの成果を総括し、本学校園における幼小中一貫教育の「グランドデザイン」としてまとめることができ、一貫教育の完成年度にあたる平成25年度に向けて大きな成果が得られたと考えます。そのグランドデザインを参照して頂きながら、研究授業を参観して頂ければと存じます。なお、保育・授業の設計にあたっては、昨年度と同様、学部教員と附属学校研究部の教員が協働しました。

本年度も、島根県、松江市の教育委員会をはじめ、各地から、諸先生方にお越し頂き、ご指導賜りましたことに深く感謝申し上げます。ご存知のように、昨今の教育現場は、かつてないほどの深刻な課題を抱えております。このような状況下にあって、本附属学校園の果たすべき役割は益々大きくなり、地域との連携をより一層深めていくことが求められています。今後も、附属学校園としての使命を自覚し、現代的教育課題への取組や地域貢献を推進していく所存です。皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

目 次

本学校園の幼小中一貫教育の成果に向けて	1
本学校園 幼小中一貫教育について	3
教育研究の構想	9
保育・教科等の取組	
● 保 育	15
自ら考え、工夫し、伝え合う力を育む保育	
● 国 語	32
学び合いの中で個の読みを広げ深める国語学習	
● 社 会	49
子どもの発達段階に即した社会認識の育成をめざす社会科学習	
— 社会生活を豊かにする思考力・判断力・表現力を育てる学び合いの在り方 —	
● 算数・数学	66
豊かに考え、表現する算数・数学学習	
— 学び合いの中で、数学的な思考力・判断力・表現力を高める授業づくり —	
● 理 科	83
科学的思考力を育む学び合いの理科学習	
— 学んだことをいかす子どもの姿を求めて —	
● 生 活	100
自分自身の成長に気付き、くらしを豊かにしていく生活科学習	
— 学び合いの中で気付きを広げ深める —	
● 音 楽	111
学び合いの中で思考力・判断力・表現力を育む音楽学習	
● 図画工作・美術	128
豊かな造形体験をいかし、自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習	
— 思いをつかみ伝え合う中で思考力・判断力・表現力を育て高める —	
● 体育・保健体育	145
運動の心地よさを味わわせ、学び合う中で技能をのばす体育・保健体育学習	
● 技術・家庭	162
生活を工夫し創造する能力を育む技術・家庭科学習	
● 外国語活動・英語	180
学び合いの中で、思考力・判断力・表現力を育てる外国語活動・英語学習	
— 学んだことを自らいかす子どもの姿を求めて —	
● 総合的な学習	197
「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求によって	
自分の生き方を考える総合的な学習の時間の在り方	
一貫教育における「子ども支援」の取組	208
保育・教科部会の成果と課題	210

島根大学教育学部
附属学校園の取組

～基本的な考え～

（ 保育・教科等の取組 ）

おわりに

平成20年度から本格実施した本附属学校園の一貫教育研究は、本年度で5年目を迎えました。主テーマに「豊かな『学び』をつくる子どもの育成」を掲げ、各年度の研究テーマは、次のとおり設定してきました。

- 平成20年度<一年次>「子どもの学びをとらえる」
- 平成21年度<二年次>「子どもの学びをつなぐ」
- 平成22年度<三年次>「子どもの学びをつむぐ」
- 平成23年度<四年次>「子どもの学びを開く」

この歩みは、いずれも子どもの「学び」に注視し、11年間を見通した子どもたちによる「学び合い」の創造へのアプローチだったといえます。

前年度研究テーマの「開く^{ひら}」には、「学び合い」をとおして、「子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力をよりしっかりと育み、自分なりによさを感じたり価値付けられるように」との願いが込められていました。そして、本年度<五年次>の研究テーマは、「学びを拓く子どもの姿を求めて」と設定しました。本年度研究テーマの「拓く^{ひら}」には、昨年度のそれに加えて「学んできたことを自らいかしながら、新たな学びをつくりあげていく子ども」の姿が想い描かれています。

では、「学んだことをいかす」子どもの姿とは、どのようにイメージできるのでしょうか。本年度、保育・各教科においては、それぞれの教科等の特性を踏まえながら、自らが学んだことをいかす子どもの姿を追究してきました。顕著に表れるその姿としては、自らが主体的に発表している、自らの既存の知識や他者の意見をつないで発言している、自らが日常や社会に目を向けてかかわっている、などが考えられます。いずれも、学びの場での子どもの姿をとらえるものです。

振り返ると、本附属学校園の「豊かな『学び』をつくる子ども」を目指した取組・実践的追究の視点は、当初の教師の指導のありようの模索から、しだいに子どもの姿の変容へとシフトしてきていることに気付かされます。こうした学ぶ主体である子どもたちの姿自体のとらえへの流れは、ある意味で必然的な動きかと思えます。

また、「学びを拓く子ども」の姿は、なにも保育・授業の時間に限らないかもしれません。子どもたちは、本附属学校園で日々、それぞれ異なる思いや願いをもって、ひと・もの・ことなどとかかわり合いながら過ごします。そうした姿は、むしろ、日々の子どものたちの暮らしの中での何気ないやりとり、しなやかな身のこなし、その子らしい言葉づかいやふるまいなどの自然な発露にこそ真に見いだせるものではないでしょうか。そのような日常の子どもたちとの小さなかかわり合いにまで、確かな教師のまなざしが届くことを願わずにはられません。

終わりにになりましたが、本研究発表会の開催に当たりましては、県・市の教育委員会関係等からの本研究発表会助言者の先生方に懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました。心より厚くお礼申しあげます。

本附属学校園の豊かな「学び」をつくる道のりは限りないものであり、これからもその歩みを止めない実践的追究が求められます。今後とも、本附属学校園の研究・実践に対しまして、諸先生方の温かいご理解とご批評をいただきますようよろしくお願い申しあげます。

平成24年11月

学校園長 佐々有生

◆ 共同研究同人一覽（附属学校園教職員並びに教育学部教員） ◆

島根大学教育学部附属学校部長 舟木 賢治
 島根大学教育学部附属学校園長 佐々 有生
 島根大学教育学部附属中学校副校長 齋藤 英明
 島根大学教育学部附属小学校副校長 永井 孝夫
 島根大学教育学部附属幼稚園副園長 赤木 寛子

【保育】

[幼] ○内田 祐 加納 美紀 阿武 麻衣
 福井 智子 井上結美子 福島由美子
 根本 美幸 福光 裕子
 [学] 西田 忠男

【国語】

[小] 中村 紀惠 喜多川昭博 恩田 一穂
 [中] ○川井 史生 永野 信吾 籠橋 剛
 [学] 田中 耕司 富安 慎吾

【社会】

[小] ○和田 倫寛 和田 律央 大坂 慎也
 [中] 前島美佐江 竹崎 葉子 原 義昭
 [学] 加藤 寿朗

【算数・数学】

[小] 仙田 淳一 徳永 勝俊 金築奈々恵
 [中] ○後藤 幸広 安野 洋 大谷 由香
 [学] 御園 真史

【理科】

[小] 伊藤 英俊 深田 剛生 釜田美紗子
 関野 淳也
 [中] ○高橋 里美 大山 朋江 園山 裕之
 [学] 松本 一郎 栢野 彰秀

【生活】

[小] ○釜田美紗子 大坂 慎也
 [学] 川路 澄人

【音楽】

[小] 神門 洋子 能海 麗美
 [中] ○小村 聡 岡 伸彦
 [学] 藤井 浩基

【図画工作・美術】

[小] ○三桐 撰夫 矢野美穂子
 [中] 錦織 秀行
 [学] 有田 洋子

【体育・保健体育】

[小] ○小草 康弘 小林 敏朗
 [中] 柏木 裕至 藤田 壮志 岡田 歩美
 [学] 廣兼 志保 西村 覚

【技術・家庭】

[小] 竹吉 昭人
 [中] ○後藤康太郎 井上富美子
 [学] 長澤 郁夫 正岡 さち

【外国語活動・英語】

[小] 関野 淳也 福島 歩惟
 [中] ○高田 純子 須田 香織 岩崎 香織
 和崎 公与 片寄メーガン
 [学] 縄田 裕幸 猫田 英伸

【総合的な学習】

[小] 喜多川昭博
 [中] ○岩崎 香織
 [学] 深見 俊崇

【子ども支援（特別支援教育・養護教諭）】

[幼] 福島由美子
 [小] ○宮崎 紀雅 野津 道人 飯島 湾
 小松原知子 小川真由子
 [中] 奈良井 正 片寄翔一郎 古瀬 知美

○：主任 [幼]：幼稚園 [小]：小学校 [中]：中学校 [学]：学部共同研究員

平成24年11月 印 刷

平成24年11月 発 行

発 行 島根大学教育学部附属学校園

島根大学教育学部附属幼稚園 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属小学校 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属中学校 〒690-0824 松江市菅田町167-1

附属学校園 <http://www.shimane-fuzoku.ed.jp/>

印 刷 (有) 木 次 印 刷

〒699-1312 雲南市木次町山方630-5
